

令和3年度

立川市立松中小学校学校経営計画

校長 福原 憲生

この地域社会が、安心して住みよい町として続き、さらに発展していくために、将来を担う子供たちを健全に育成する使命を学校はもっている。

コミュニティ・スクールとして3年目を迎える本校は、地域に生きる子供たちを育てるため、学校運営協議会とともに教育課程を編成し、学校教育目標を地域住民や保護者と共有して、教育活動を推進する。また、ネットワーク型の学校経営を通して、子供の活躍できる場を広げ、身に付けた基礎的な技能を活用できる喜びを味わわせ、学習への意欲と自己肯定感を高めていく。

さらに、「立川市障害のある人もない人も共に暮らしやすいまちをつくる条例」に基づき、まつのみ学級、キラリとの緊密な連携を通して、かしこく自立した人間に成長させることを目指し、人権尊重と社会貢献の精神を育む。

1 松中小学校の教育目標

日本国憲法、教育基本法、東京都教育委員会及び立川市教育委員会の教育目標をもとに、松中小学校の児童の実態を踏まえて、目標を設定した。子供たちが、変化の激しいこれからの社会の中で力強く未来を切り拓いていくために、学習指導要領が目指す「生きる力（知・徳・体のバランスのとれた力）」を育むことを目指し、人権尊重と社会貢献の精神を基調とする。

○ やさしく（徳）

☆ かしこく（知）

○ たくましく（体）

☆は重点目標

2 学校経営をすすめる5つの基本理念

～児童・教職員・保護者・地域にとって居心地のよい学校づくり～

- ① 子供の安全と利益を判断の最優先とする。
- ② 教育公務員として法を遵守し、ライフ・ワークバランスの視点を持ち、服務事故防止する。
- ③ 教職員がチームとして協働するとともに、一人一人が責任をもつ。
- ④ 教職員が前例にとらわれず、目的達成のための工夫を行う。
- ⑤ 保護者・地域とのつながりを大切にし、信頼力を高める。

3 目指す学校像

- (1) 地域の学校として、みんなが楽しく通い、誇りに思える学校
(やさしく)
- (2) 子供たちに、基礎的・基本的な学習内容を身に付けさせることができる学校 (かしこく)
- (3) 組織として課題を自覚し、一人一人が役割を果たして課題解決できる学校 (たくましく)

4 目指す子供像

- (1) 共感する態度で接し、相手を思いやり、互いのよさを認め合う子供
(やさしく)
- (2) 自ら学び・考え・伝え合い、体験を通して、基礎基本の学力を身に付ける子供 (かしこく)
- (3) よりよい生活習慣を身に付け、体力の向上を図り、何事にも粘り強く取り組む子供 (たくましく)

5 目指す教職員像

- (1) 他者を深く理解し、他者のよさを認められる、人間性豊かな教職員
(やさしく)
- (2) 教育公務員としての自覚をもち、コンプライアンス意識の高い教職員
(かしこく)
- (3) 常に指導力向上に努め、研修等を通して力量を磨く教職員
(たくましく)

6 立川第七中学校区で目指す児童・生徒像

「自ら学び、自ら行動する、自立した子供」

- 小・中9年間の教育活動により、自立した子供たちを育てる。
- ”知徳体の調和のとれた子供”を育てる。
- 校区スタンダード（学習・生活）を共有協働して取り組み、定着を図る。

7 具現化のための取組

キャッチフレーズ ～学ぶ楽しさ味わって、みんなが笑顔の松中小～

キーワード：「どの子ども、だれもが」

(1) やさしさが身に付く指導

① だれもが楽しんだり、安心したりできるために

- ルールを守る大切さの指導と、そのよさを実感させる指導を全校で行う。
- 場面に応じた適切なあいさつやフワフワ言葉の増進、「さん」をつけて呼ばせるなど、望ましい言語環境で思いやりをもてる指導を全校で行う。
- 子供と一緒に遊んだり、週番活動を行ったりして、登校時から休み時間、放課後、下校時まで、全職員で子供を見守る。
- 毎月第3木曜日の「いじめみのがさあずデイ」の充実を通して、いじめ発見の意識を高め、迅速な情報共有と「立川市立松中小学校いじめ防止基本方針」に基づいた組織的対応で、安心できる環境をつくる。

② だれもが誇りに思える学校になるために

- 学校行事ではブロックで活動することを通して、異学年での学び合いを特色とする。
- 子供にとって安心できる場を適切に設定し、不登校の解消につなげる。
- 学校だより、学年だより、学級だよりの充実、ホームページの頻繁な更新を通して、教育活動の発信を行う。
- 感染症、施設・設備の安全点検や自然災害や不審者侵入などの事案で全教職員が適切で迅速な行動をとり、危機管理について意識を高める。

(2) かしこさが身に付く指導

① 学習に集中できる環境づくりのために

- 全教室で前面をシンプルにし、学習内容に集中できるようにする。
- 授業の進行表を示し、学習の見通しがもてるようにする。
- 全校で授業規律（松中小スタンダード）の徹底に取り組む。

② 効果的な学習指導を行うために

- 子供が授業後に自己評価できるような「ねらい」を示す。
- 授業のねらいを早い段階で達成し、活用する時間を確保する。
- ICT（タブレット端末等）を積極的に活用した授業展開で、子供の特性に応じた学習方法が提供できるようにする。
- 自分の考えを発表させたり、疑問に思ったことを探求させたり、主体的で対話的な深い学びを授業展開する。

③ 習得内容の定着のために

- 余剰時数での反復学習と必要な子供に対して補充学習を実施する。
- 学年×10分の家庭学習を徹底する。
- 指標等を工夫して、学習の定着度合いを測る。

④ 自己理解・他者理解を深めるために

- まつのみ担任、キラリ担任との連携で、理解教育を行う。
- 家庭と連携した個別指導計画の作成と実施及び振り返りを通して、自分の成長を実感させる指導を行う。
- 自分の特性を理解させ、必要な支援希求ができる指導を行う。
- 社会福祉協議会等、各種団体と連携を図った障害理解を実施する。

⑤ 学習に向かう意欲を高めるために

- 全学年で「リーダー・イン・ミー」に取り組み、主体的に考えたり、目的をもって行動したりできる習慣を身に付けさせる指導を行う。
- 5年生でTGGを活用し、コミュニケーションできる言語指導を行う
- 起業家プログラムの取組を松中小学校を卒業する集大成と位置づけ、生涯に渡って学ぶことの大切さを実感できるようにし、学習に向かう意欲を高める。
- 指導計画に沿ってプログラミング教育を全学年で実施し、子供の論理的思考力を高める。

(3) たくまさが身に付く指導

① 体力向上の推進

- オリンピック・パラリンピック教育を推進する。
- 計画的な取組（体力調査の活用、なわとび、ラジオ体操）を行う。
- 集団行動とけがや病気の予防指導（朝会、集会、避難訓練、運動会）を行う。

② 地域で活躍できる子供を育てるために

- 地域素材を教材化し、農業体験、環境学習、キャリア教育、食育などで立川市民科を充実させる。
- 幼稚園や保育園との交流学习、立川七中との小中連携教育を推進する。
- 公共交通機関の利用の仕方、団体行動の仕方、他者とのかかわり方などを学校行事、体験学習等を通じて身に付けさせ、規範意識を育てる。
- 保護者会や道徳授業地区公開講座等の参加率を高める工夫をし、子供の成長や課題について共に考える場とする。
- 学校運営協議会を学期に2回開催し、学校運営を改善する。

③大人が手本、公共心や公德心の育成

- 服装や言葉遣い、教室の整理整頓、時間や集団生活におけるルール、マナーなど子供に範を示して、大人に対する信頼とあこがれる意識を育てる。